

商品開発、技術向上を先行的に取り組み、集約的規模拡大により継続的農業経営を目指す (有限会社源水)

＜法人の概要＞

所在地：高知県四万十町

設 立：平成63年1月（農業参入時期：平成25年4月）

資本金：300万円 売上高：350万円

役 員：3人（農業従事者1人）

従業員：10人（うち農作業従事4人）

経営面積：2ha（うち所有0ha、借入2ha） 特定農作業受託面積：6ha

作付作物：水稻、小麦、大豆、野菜（里芋、生姜、椎茸等）

加工品：うどん及びラーメンの麺、味噌、パン、焼酎等）



団結力ある源水の皆様



背の高い農林22号

＜営農を開始するまでの状況＞

うどん屋を経営する高橋氏は、自ら原料を作ろうと農業参入を検討し始めていた。

平成20年頃、アグリ窪川で1年間研修を受け、30aの耕作放棄地の復旧からスタートした。

高知大学で小麦を開発されたという話を聞き、高知大学のプロジェクトに参加。高知では、今まであまり取り組まれていなかった小麦作りに本格的に着手した。

<特徴的な取組>

独自で研究を重ね、食物残渣等様々なものを混ぜてバイオ肥料を作り、それにより様々な農作物を栽培している。里芋、生姜については、京都の有名料亭と取引を始めている。

米は、在来種で作りにくい農林22号、香り米である十和錦を栽培している。

本業であるうどんの麺づくりのみならず、ラーメンの麺づくりにも取り組んでおり、さらに、味噌加工にも着手している。

高知大学及び土佐FBC（フードビジネスクリエイター）との共同研究で、パン、焼酎等の商品開発に取り組んでいる。

<今後の農業経営の展開方向>

現在は商品開発と栽培技術向上に取り組み、農地中間管理事業が軌道に乗り始めたら、農地を集約し、規模拡大を進めていきたい。

<今後農業参入を進めようとしている企業へのアドバイス>

農業参入には忍耐が必要。また、補助金に頼らない資本力が必要。雇用はその場のしのぎのアルバイトに頼るのではなく、正規雇用を確保することが必要。



独自に作り出したバイオ肥料



バイオ肥料で育つサツマイモ